

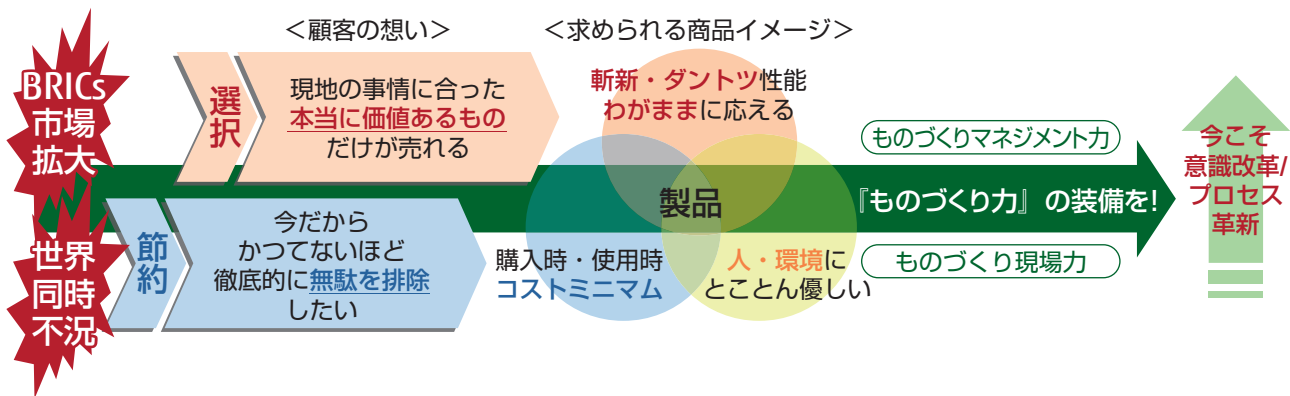
ものづくり開発力診断サービス

売れない時代の『ものづくり開発力』

ものづくりの現状（課題）

グローバル展開を見据え、自社の強みを生かした「ものづくり改革」が製造業の経営課題

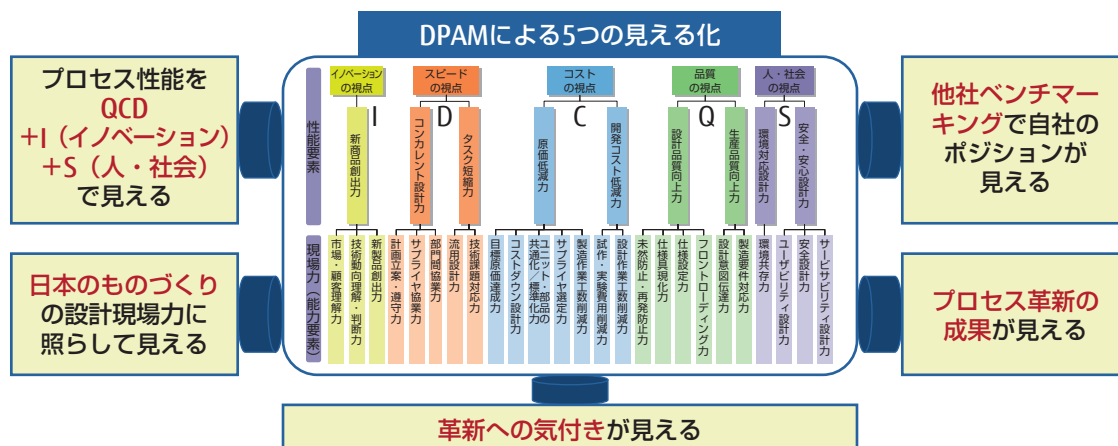
- 市場のグローバル化が広がる中、地域やターゲット市場の特性に合った製品をタイミング良く適正な価格でグローバルに提供することが求められてきています。このため、誰に何をどのように作るかが、企業にとって重要な課題となっています。
- 日本企業の多くが、日本で成功モデルを作り、その廉価版をBRICSに代表される新興市場で売るモデルを展開してきましたが、一部の業界を除き、うまくいきません。今こそ、ものづくり上流（企画・開発・設計）プロセスを見直す必要性があります。



DPAMIによる「ものづくり開発力の見える化」

ものづくりの開発力を測るベンチマークモデル

- 富士通総研は2005年より、社団法人 日本電子情報技術産業協会 (JEITA) の標準化委員会「設計プロセス評価指標標準化G」において、設計プロセスの改革を行うための標準設計プロセス評価モデル（DPAMI：Design Process Assessment and improvement Model）の開発とその適用を進めてきました。DPAMIは、設計プロセスの性能を、現場の視点で「見える化」し、適切なプロセス改革を実現します。

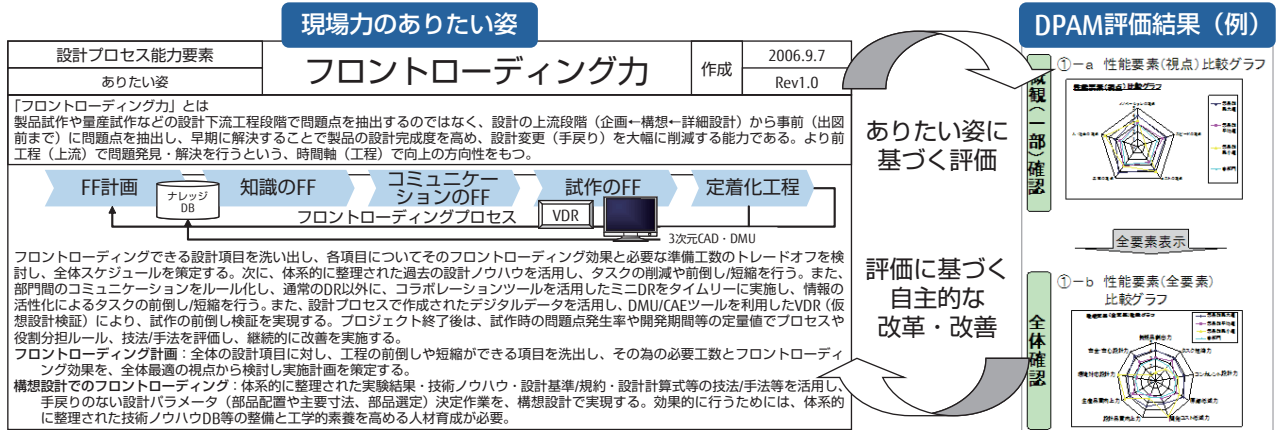


ものづくり開発力診断の期待効果

ものづくりプロセス自己革新の出発点

- 企画・開発・設計は、企業の中で一部聖域化されている部分がありますが、その良し悪しを評価することで開発の現状を見える化できます。
- 現場力のありたい姿が定義されていることで、診断を通して設計者間で共通認識が取れるとともに、若手社員の教育に役立ちます。
- 業務プロセスだけでなく、マネジメントや人材、企業風土まで踏み込んだ診断であるため、組織の改革の方向性が見えます。

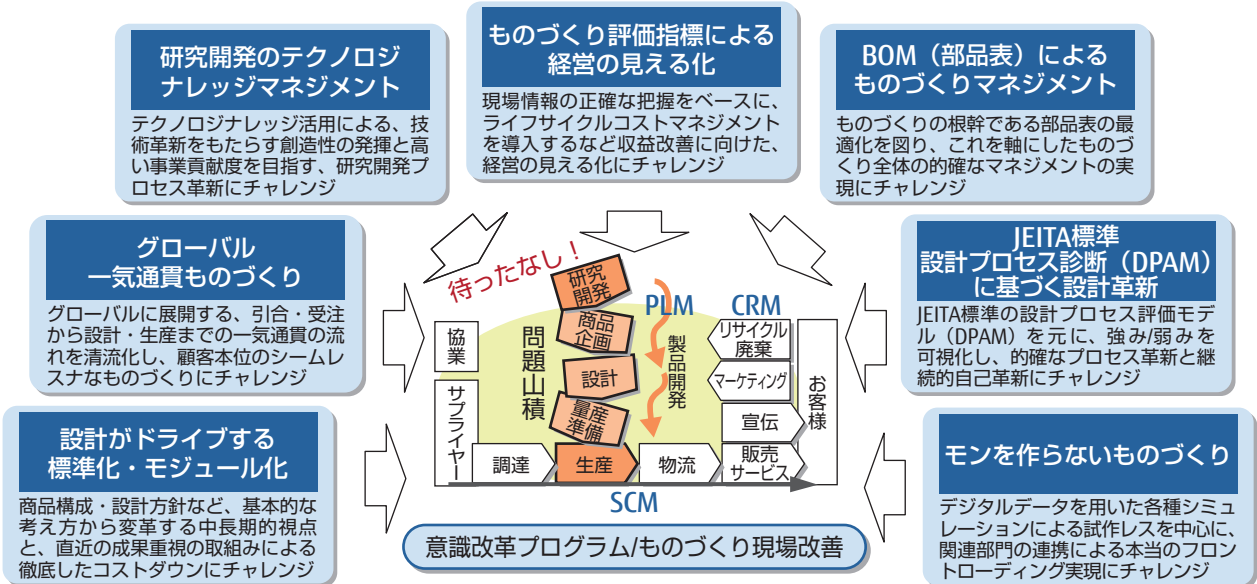
【DPAMを使った自己改革サイクル（例）】



【ご参考】ものづくり開発力強化に向けた更なる取り組み

ものづくり改革支援サービス

富士通総研では、ものづくり開発診断だけでなく、ものづくり開発に関連する様々なコンサルティングサービスをご提供しております。診断に基づく革新計画の策定から個別改革テーマの実施支援まで、様々な業界における、豊富なものづくり革新のコンサルティング実績をもとに、「プロジェクト推進」と「改革内容」の両面から強力にご支援いたします。



お問い合わせ先

株式会社 富士通総研

第1コンサルティング本部 産業事業部
〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1ニューピア竹芝サウスタワー TEL:03-5401-8397
<http://jp.fujitsu.com/group/fri/>